
プロジェクト **ASAF 対応（概念フレームワーク）**

項目 **再審議の戦略**

本資料の目的

1. 2014 年 4 月の IASB ボート会議において、ディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」（以下「DP」という。）に寄せられたコメントを踏まえ、「概念フレームワーク」プロジェクトについて、IASB スタッフが提案する再審議の進め方を検討することが予定されている。
2. 2014 年 4 月の IASB ボート会議では、以下のアジェンダ・ペーパーが議論される予定である。本委員会では、アジェンダ・ペーパー10A から 10D を取り上げ、概要を紹介する。
 - (1) アジェンダ・ペーパー 10A：再審議の戦略
 - (2) アジェンダ・ペーパー 10B：初期的な戦略：負債と資本
 - (3) アジェンダ・ペーパー 10C：初期的な戦略：測定
 - (4) アジェンダ・ペーパー 10D：初期的な戦略：純損益とその他の包括利益
 - (5) アジェンダ・ペーパー 10E：概念フレームワークの目的及び位置付け
3. 本資料は、このうち、再審議の戦略に関するアジェンダ・ペーパー10A を訳したものである。

日 程

4. 「概念フレームワーク」プロジェクトを再開する際に我々は、本プロジェクトを速やかに完了すべきだと決定した。この決定は、基準の開発及び改訂を行う際の IASB にとっての本プロジェクトの重要性を反映している。ディスカッション・ペーパーに対する一部のコメント提出者は、改訂「概念フレームワーク」についての作業を 2015 年末までに完了するという提案を支持した。しかし、コメントした人々の多くは、いくつかの領域（特に、測定、表示及び開示、その他の包括利益（OCI）、負債と資本の区分）についてもっと深い議論ができるように、日程案を再検討すべきだという見解を示した。
5. 本プロジェクトの日程は、3 月の ASAF 会議で議論された。
 - (1) 多くの ASAF メンバーは、IASB は引き続き、現行の日程に沿った「概念フレームワーク」の改訂の完了に高い優先順位を置くべきだと述べたが、一方で、その結果として、「概念フレームワーク」の一部の領域が他よりも開発される可能性があることを認めていた。
 - (2) 他の ASAF メンバーは、IASB は「概念フレームワーク」のいくつかのセクショ

ンを現行の日程までに完了すべきであるが、その後において、測定と OCI に関するセクションの開発にはもっと時間を掛けるべきだと提案した。

- (3) 一部の ASAF メンバーは、いくつかの領域で追加的な調査研究作業や新基準が必要になるかもしれないと指摘した（例えば、測定、OCI、負債と資本の区分）。しかし、これにより「概念フレームワーク」の完成を遅らせるべきではない。IASB は、必要な場合には、いったん調査研究作業又は基準改訂を完了させた後に、「概念フレームワーク」のこれらのセクションを再検討することが考えられる。
6. スタッフは、「概念フレームワーク」プロジェクトを適時に完了させることが重要であると引き続き考えている。これは、「概念フレームワーク」の一部の領域が他よりも開発されることを意味するかもしれない。しかし、我々が行うことのできる改善を適時に完了させる方が、文書全体を遅らせるよりも適切と考えている。
7. 測定、OCI、負債と資本の区分の領域は、プロジェクトをスローダウンさせる可能性がある。アジェンダ・ペーパー10B から 10D は、これらの領域に対する考えられるアプローチを議論している。
8. プロジェクトの範囲と、測定・OCI・負債と資本の区分に対するアプローチについてのスタッフの提案が受け入れられた場合には、改訂「概念フレームワーク」の公開草案を 2014 年末までに公表することが可能であると依然として我々は考えている。
9. 最終確定された「概念フレームワーク」の時期は、公開草案のコメント期間と公開草案に対するコメント内容に大きく左右されることになる。しかし、2016 年の第 2 四半期という目標期日は達成可能と考えている。

範 囲

10. 2012 年に「概念フレームワーク」プロジェクトを再開した際に、IASB は、現行の「概念フレームワーク」を基礎とすることを決定した。「概念フレームワーク」のすべての側面を根本的に再検討するのではなく、更新、改善、空白部分の補充を行うということである。この点についてコメントした回答者の大半は、このアプローチを支持すると述べていた。
11. スタッフは、このアプローチは「概念フレームワーク」に合理的な期間内に大きな改善をもたらすことができると引き続き考えている。したがって、この全体的なアプローチへの変更は提案しない。
12. ディスカッション・ペーパーでは、改訂「概念フレームワーク」を適時に完了する

ため、IASB は財務諸表だけを扱うとも述べていた。経営者による説明、期中財務報告書、プレスリリース、分析用に提供される補足資料など、他の形式の財務報告書は扱わないことになる。この論点についてコメントした人々の大半は、改訂「概念フレームワーク」が、少なくとも当面は、財務諸表だけを扱うべきであることに同意した。しかし、数名のコメント提出者は反対し、これは文書の目的適合性を限定することになると主張した。特に、数名のコメント提出者は、「概念フレームワーク」は中間財務報告書と経営者による説明も扱うべきだと述べた。

13. スタッフは、他の形式の財務報告書を含めるように本プロジェクトの範囲を拡大すると、「概念フレームワーク」の改善の公表が大幅に遅れることになると考えている。したがって、本プロジェクトは引き続き財務諸表だけに焦点を当てるべきだと提案する。

アプローチ案

14. このペーパーの付録 A では、「概念フレームワーク」の以下の領域に対する我々のアプローチ案を示している。
 - (1) 目的と位置付け
 - (2) 構成要素
 - (3) 資産及び負債の定義を補強するための追加的なガイダンス
 - (4) 認識及び認識の中止
 - (5) 表示及び開示
 - (6) 報告企業
 - (7) 第 1 章及び第 3 章
 - (8) その他
15. これらの領域の大部分について、我々は、ディスカッション・ペーパーに対する回答を踏まえて、ディスカッション・ペーパーにおける対案を分析するペーパーを作成することを提案している。しかし、以下の領域は強調に値する。
 - (1) **報告企業**——これはディスカッション・ペーパーでは議論していなかった。
 - (i) 報告企業に関する 2010 年の公開草案に対する回答と「概念フレームワーク」のこのセクションへの我々のアプローチ案を分析したペーパーを、2014 年 5 月の会議で議論する予定である。
 - (ii) 2010 年の ED へのコメント提出者の多くは、「概念フレームワーク」は財務

諸表の作成の際に採用すべき観点を議論すべきだと述べた。負債と資本の区分を議論する際に、これについて議論する予定である。

(2) **第1章及び第3章**——2014年5月の会議で、「概念フレームワーク」のこれらの章に変更を加えるべきかどうか、また、変更する場合はどのようにすべきかを議論するペーパーを提示する予定である。以下に焦点を当てる。

- (i) 受託責任
- (ii) 慎重性
- (iii) 信頼性
- (iv) 主要な利用者
- (v) 複雑性
- (vi) 実質優先

2014年7月の会議で、これらの章の追加的な変更（結果的修正を含む）が必要かどうかを議論する予定である。

(3) **資本維持**——コメント提出者の大半が、「概念フレームワーク」における資本維持概念の現行の記述及び議論を、高インフレの会計処理に関する作業で変更の必要性が示される時までは、おおむね現状のままとするというディスカッション・ペーパーの提案に同意した。したがって、資本維持を議論することは提案しない。ただし、公開草案の測定セクションでこの論点をさらに議論する必要性が明らかになった場合は別とする。

16. 付録Bでは、我々が議論する予定のトピックの会議ごとの概要を示している。

17. このペーパーには、測定、負債と資本の区分、純損益及びOCIの計算書における表示に対する我々のアプローチ案についての詳細な議論は記載していない。ディスカッション・ペーパーに対するコメント提出者は、これらの領域について重大な懸念を指摘していた。これらの懸念は、これらの領域にアプローチする方法についての我々の提案とともに、別のペーパーで議論する。

ディスカッション・ポイント

本文及び付録で示されている再審議の進め方について、ご意見を頂戴したい。

付録 A—アプローチ案

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
<p>目的と位置付け</p>	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IASB を「概念フレームワーク」の主要な利用者として特定することに反対し、IASB 以外の関係者にとっての「概念フレームワーク」の重要度を過小表示になると主張 ● 「概念フレームワーク」は IFRS ではなく、IASB が「概念フレームワーク」から乖離することを認めるべきであることに同意 <p>一部のコメント提出者は、「概念フレームワーク」の一部の側面を IASB だけのものとする提案に反対した (OCI、認識、認識の中止)。</p>	<p>4 月会議</p> <p>AP10E「概念フレームワークの目的と位置付け」参照</p>
<p>構成要素</p>		
<p>資産・負債の定義</p>	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資産と負債の定義が、それにより生じる可能性のあるフローよりも、資源又は義務に焦点を当てることに同意 ● 「予想される」への言及を「可能性のある」に置き換えることに同意 	<p>5 月会議</p> <p>以下を論じるペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「予想される」という概念を「可能性のある」という概念に置き換える提案を確認すべきかどうか (認識規準における蓋然性の議論も参照)

¹ 2014 年 3 月の IASB 会議で提示されたアジェンダ・ペーパー10A から 10M が、寄せられたフィードバックのより詳細な要約を示している。

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
	<ul style="list-style-type: none"> ● 定義又は認識規準において明示的な蓋然性の閾値を維持することを選好 <p>物的実体を権利の束と見るべきかどうかに関しては、両論があった（「権利」アプローチ）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「権利」アプローチを確認すべきかどうか ● 定義案の諸側面、特に、 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「現在の」と「過去の事象の結果として」の両方が必要か ➢ 「可能性がある」の概念を負債の定義に追加すべきか ➢ 「可能性がある」よりも明確な用語があるか ➢ 経済的資源の定義に「又は価値の他の源泉」は必要か ➢ 経済的資源の定義に、公共セクター又は非営利企業に関連性があり得る項目を含めるべきか
収益・費用	<p>数名のコメント提出者が、IASBは収益と費用を資産と負債の変動で定義すべきではないと指摘。</p> <p>多くのコメント提出者は、収益と費用の定義に大きな変更の必要はないことに同意。</p> <p>一部のコメント提出者は、IASBが次のものを構成要素として定義すべきだと提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異なる種類の収益又は費用 ● 純損益と包括利益 	<p>5月会議</p> <p>収益と費用は依然として資産と負債の変動として定義すべきであることを確認するペーパー</p> <p>7月会議</p> <p>OCIの議論の一環として、異なる種類の収益又は費用、純損益、包括利益について構成要素を定義する必要があるかどうかを検討。</p> <p>定義の軽微な変更は文案作成段階で検討。</p>

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
キャッシュ・フロー計算書及び持分変動計算書の構成要素	この点でのコメントはほとんどなかったが、キャッシュ・フロー計算書の構成要素を定義する必要性を疑問視する意見があった。	7月会議 以下のことを議論するペーパー <ul style="list-style-type: none"> ● キャッシュ・フロー計算書及び持分変動計算書の構成要素を定義すべきかどうか ● 基本財務諸表間及び財務諸表の各構成要素間の関係（表示の議論も参照）
資産と負債の定義を補強するための追加的なガイダンス		
義務の意味	多くのコメント提出者が、 <ul style="list-style-type: none"> ● 負債の定義に法的義務と推定的義務の両方を含めることに同意 ● 負債の定義に企業の将来の行動を条件とする義務の少なくとも一部を含めることに同意 ● IASB がすべての「実質上の」義務（推定的であれ条件付であれ）の間の相互関係を考慮して、経済的強制の役割に対する首尾一貫したアプローチを開発すべきだと考えている 	5月会議 制限された裁量が負債の識別に与える影響を議論するペーパー <ul style="list-style-type: none"> ● すべての状況に適用できる最優先の原則及び首尾一貫した用語 ● 以下の関する結論に至るのに役立つための原則及び用語の適用 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 法的に強制可能な義務と推定的義務の両方を含める提案を確認すべきかどうか ➢ 経済的強制の役割 ➢ 企業の将来の行動を条件とする義務（「見解 2」、「見解 3」又は何か別のもの）——資産や、負債と持分請求権との区分について生じる可能性のある影響を考慮

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
支配（及び関連するガイダンス）	<p>一部のコメント提出者は、支配の定義を「概念フレームワーク」に含める提案を歓迎。しかし、数名は、それが必要かどうか疑問視。</p> <p>一部のコメント提出者は、定義や修正提案の諸側面に異議</p>	<p>7月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「支配」の維持を確認すべきかどうか ● 「支配」を資産の定義に入れて、認識規準に入れないことを確認すべきかどうか ● ディスカッション・ペーパーで提案した支配の定義
契約上の権利及び義務の実質の報告	<p>多くのコメント提出者が、より多くのガイダンスを「概念フレームワーク」に含めることと、ガイダンスの内容の両方を支持。</p>	<p>文案作成段階で、ディスカッション・ペーパーで提案した契約上の権利及び義務についての具体的なガイダンスを確認。</p> <p>5月会議</p> <p>負債・資本の分類における経済的強制の役割に関する結論を議論するペーパー（「義務」の意味に関するペーパーの中で）</p>
未履行契約	<p>多くのコメント提出者が、未履行契約に関するガイダンスをさらに開発する必要があると考えている</p>	<p>7月会議</p> <p>以下を目的とするペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 未履行契約から生じる権利及び義務の性質のより精密な記述の開発 ● 権利及び義務が単一の正味の資産又は負債を生じさせる理由の説明（また、どのような状況で、別個の総額の資産と総額の負債を生じさせるのか）

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
認識及び認識の中止		
認識	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 認識規準が目的適合性と忠実な表現に言及することに同意 ● 蓋然性と測定信頼性を明示的な認識規準として残す方が明確で単純明快となると提案 	<p>5月会議</p> <p>現行の認識規準（可能性の高い経済的便益と信頼性のある測定）を、質的特性に基づいた規準に置き換えるべきかどうかを議論するペーパー</p>
認識の中止	<p>コメント提出者は、認識の中止に使用すべきアプローチについて意見がさまざま（すなわち、支配、リスクと経済価値、又は組合せ）。</p>	<p>7月会議</p> <p>認識の中止のアプローチを検討するペーパー</p>
資 本		
資本について決定すべき全体的アプローチ	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 厳格な義務アプローチを支持 ● さまざまなクラスの持分請求権の影響に関する追加的情報の提供を支持 ● 一部のクラスの持分請求権の測定を更新して、その結果を拡張した持分変動計算書で強調するという提案については意見留保を表明 	<p>AP10B「初期的な戦略：負債と資本」で、「概念フレームワーク」の資本のセクションに対する考え得るアプローチを議論</p>
測 定		
測定について決定すべき全体的アプローチ	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 混合測定アプローチを支持 ● 測定基礎の選択に関するガ 	<p>AP10C「初期的な戦略：測定」で、「概念フレームワーク」の測定のセクションに対する考え得る</p>

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
	<p>イダンスに同意</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業モデル概念が、IASB が測定基礎を決定するのに役立つ可能性があるとは指摘 <p>一部のコメント提出者は次の意見を表明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● もっと思考と分析が必要 ● 単に現行実務の体系化である ● 基準レベルの詳細が多すぎ 	<p>アプローチを議論</p>
表示及び開示		
<p>基本財務諸表における表示</p>	<p>ディスカッション・ペーパーで提案したアプローチに幅広い支持があったが、多くのコメント提出者が、このセクションの諸側面について懸念を表明（全体的な詳細さのレベルを含む）</p>	<p>6月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本財務諸表の目的 ● 何が基本財務諸表なのか、基本財務諸表間の関係、基本財務諸表と財務諸表の構成要素との関係
<p>注記における開示</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的 ● 範囲 	<p>ディスカッション・ペーパーで提案したアプローチに幅広い支持があったが、多くのコメント提出者が、このセクションの諸側面について懸念を表明（全体的な詳細さのレベルを含む）</p>	<p>6月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 財務諸表注記の目的 ● 財務諸表注記の範囲と境界
<p>重要性</p>	<p>多くのコメント提出者が、「概念フレームワーク」における重要性の概念を改訂する必要はないことに同意したが、「概念フレームワーク」の外で追加的な作業を行うべきだとしていた。</p>	<p>6月会議</p> <p>重要性の概念を「概念フレームワーク」において更新する必要はないことを確認すべきかどうかを議論するペーパー</p>

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
<p>開示と表示の形式</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開示目的 ● コミュニケーション原則 	<p>多くのコメント提出者が、コミュニケーション原則を「概念フレームワーク」に記載する提案と、提案されたコミュニケーション原則に同意。しかし、一部のコメント提出者は、コミュニケーション原則の変更又は追加的なコミュニケーション原則を提案。</p>	<p>6月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各基準に開示目的を記載すべき旨を確認すべきかどうか ● 「開示に関する取組み」との相互関係
<p>その他</p>	<p>-</p>	<p>6月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッション・ペーパーで使用する用語（「表示」、「開示」、「集約」、「基本財務諸表」など） ● 「開示に関する取組み」との相互関係
<p>純損益及びその他の包括利益（OCI）の計算書における表示</p>		
<p>OCI セクションについて決定すべき全体的アプローチ</p>	<p>多くのコメント提出者は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 純損益を合計又は小計として表示することに同意 ● 純損益を定義又は記述すべきだと表明。しかし、提案は少なく、どう行うべきかについての意見の一致はない。 ● OCI への大まかなアプローチを支持（ただし、DP で議論した理由については必ずしも支持せず） ● OCI に含めた項目の一部又 	<p>AP10D「初期的な戦略：純損益とその他の包括利益」で、「概念フレームワーク」での OCI に対する考え得るアプローチを議論</p>

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
	<p>は全部のリサイクルリングを支持。しかし、どの項目をいつリサイクルすべきかに関する意見の一致はない。</p> <p>一部のコメント提出者はこのセクションについて次の意見を表明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● もっと思考と分析が必要 ● 単に現行実務の体系化である ● 基準レベルのトピックである ● 測定セクションともっと適切に関連付けるべき 	
報告企業		
財務諸表の視点	<p>一部のコメント提出者が、財務諸表を表示する視点（企業の視点か資本主の視点か）について、以下のことを記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「概念フレームワーク」において議論すべき ● 負債と資本の区分を検討する際に重要 	<p>5月会議</p> <p>財務諸表の視点を議論するペーパー</p>
<p>その他の報告企業の論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 報告企業の記述 ● 連結財務諸表 ● 他の種類の 	<p>一部のコメント提出者は、報告企業の独立した章は必要ないと指摘（報告企業の大まかな記述で十分）。支配の論点は、基準レベルで扱うべき。</p>	<p>5月会議</p> <p>以下を議論するペーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 報告企業の記述と境界 ● 連結財務諸表 ● 他の種類の財務諸表（親会社単独、結合、二重上場）

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
財務諸表（親会社単独、結合、二重上場）		
第1章及び第3章		
受託責任	受託責任を「概念フレームワーク」においてもっと目立たせるべき	5月会議 以下を議論するペーパー <ul style="list-style-type: none"> ● 受託責任をもっと目立たせることの利点と欠点 ● 受託責任をもっと目立たせることのできる種々の方法
慎重性	慎重性を「概念フレームワーク」に再び導入すべき	5月会議 以下を議論するペーパー <ul style="list-style-type: none"> ● 「慎重性」という用語の意味 ● 慎重性を再び導入することの利点と欠点 ● 慎重性を再び導入することのできる種々の方法
信頼性	信頼性を「概念フレームワーク」に再び導入すべき	5月会議 以下を議論するペーパー <ul style="list-style-type: none"> ● 信頼性を再び導入することの利点と欠点 ● 信頼性を再び導入することのできる種々の方法
主要な利用者	一部の人々は、財務報告の目的は一般的な株主のニーズに焦点を当てるべきだと考えている。 他方で、第1章で識別している	5月会議 第1章で識別している財務報告の主要な利用者を確認すべきか

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
	主要な利用者グループは狭すぎると考える人々もいる。	どうかを議論するペーパー
その他の論点 ● 複雑性 ● 実質優先	「概念フレームワーク」には、これらの概念への言及と、追加的な議論を含めるべき	5月会議 「概念フレームワーク」でのこれらの論点の現行の記述に変更が必要かどうかを議論するペーパー
第1章及び第3章のレビュー	-	7月会議 スタッフが、これらの章の文言をレビューして、追加的な修正（結果的修正を含む）が必要かどうかを識別する。
その他		
事業モデル	多くのコメント提出者は、 ● 事業モデルが財務諸表の中で役割を有していることに同意。しかし、財務諸表にとって基本的であるのか、もっと限定的な役割とすべきなのかについては両論があった。 ● IASB が事業モデルを定義するか又は追加的なガイダンスを提供すべきだと提案。	6月会議 以下を議論するペーパー ● 財務諸表の中での事業モデルの役割（すなわち、基本的なのか、それとも考慮すべき要因の1つに過ぎないのか） ● 事業モデルを定義すべきかどうか、また、その場合、どのように定義すべきか
会計単位	多くのコメント提出者が、会計単位は通常、IASB が特定の基準を開発又は改訂する際に決定すべきであり、会計単位を選択する際に、IASB が有用な財務情報の質的特性を考慮すべきことに	6月会議 会計単位に関するガイダンスをもっと記載できるかどうかや、当該ガイダンスが何を述べる可能性があるのかを検討するペーパー

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
	<p>同意。</p> <p>一部には、「概念フレームワーク」には IASB のために会計単位の決定に関するガイダンスをもっと記載すべきだとの提案があった。</p>	<p>パー</p>
<p>継続企業</p>	<p>一部のコメント提出者が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッション・ペーパーにおける継続企業の議論は、継続企業の実質性の重要度を軽視しているように見えるとの懸念を表明 ● 継続企業に関する追加的な開示を提案 ● 追加的なガイダンスを、継続企業に関して（時間軸の明確化を含む）、及び継続企業と「実質的に無条件」や「現実的な代替案がない」などの概念との間の関連に関して要望 	<p>5 月会議</p> <p>継続企業の全体を「概念フレームワーク」に織り込む方法を議論するペーパー</p> <p>本プロジェクトで次の事項を扱う提案はしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 継続企業に関する開示 ● 継続企業ではない企業の財務諸表
<p>資本維持</p>	<p>コメント提出者の大半が、「概念フレームワーク」における資本維持概念の現行の記述と議論を、高インフレの会計処理に関する作業で変更の必要性が示される時までは、おおむね現状のままとするという提案に同意。</p>	<p>議論の予定なし</p> <p>資本維持について審議会と議論することは提案しない。ただし、ED の測定セクションに関する作業で、この論点をさらに議論する必要が明らかになった場合は除く（すなわち、資本維持についての現行の記述を ED に大きな変更なしに含めるという提案で進む）。</p>

トピック	我々の聞いた意見 ¹	計画
移行ガイダンス	一部のコメント提出者は、「概念フレームワーク」で移行ガイダンスを示すべきだと述べた。	7月会議 移行ガイダンスが必要かどうか、また、必要な場合、ガイダンスをどのような形にすべきかを議論するペーパー
結果的修正	-	7月会議 現行の基準（特に IAS 第 8 号と IAS 第 1 号）をレビューして、結果的修正が必要かどうかを検討する（例えば、基準の文言を改訂後の「概念フレームワーク」の文言と合わせるため）。注：このレビューは、現行基準の要求事項の変更を生じせることを意図したものではない。

付録 B—日程

日付	行 動
2014 年 5 月	以下の事項を議論する予定 <ul style="list-style-type: none"> ● 構成要素の定義 ● 認識 ● 構成要素の定義に関する追加的なガイダンス ● 負債と資本の区分 ● 報告企業 ● 第 1 章及び第 3 章 ● 継続企業
2014 年 6 月	以下の事項を議論する予定 <ul style="list-style-type: none"> ● その他の構成要素 ● 未履行契約 ● 表示及び開示 ● 事業モデル ● 会計単位
2014 年 7 月	以下の事項を議論する予定 <ul style="list-style-type: none"> ● 測定 ● OCI ● 認識の中止 ● 第 1 章と第 3 章のその他の領域のレビュー
2014 年 9 月	整理論点 (Sweep issues)
2014 年 12 月	公開草案の公表